お口のコンシェルジュ

インプラント治療とは

顎の骨に人工歯根埋入

【問い】私は部分入れ歯を使用中ですが、なかなか慣れません。最近、近所の方がインプラントをしてもらい、しっかりかめるようになったと聞いたのですが、入れ歯とどう違うのでしょうか。

（諫早市、65歳男性）

【答え】インプラントは、歯を失った部分の顎の骨にチタンなどでできた人工歯根を埋め込み、その上に人工の歯をかぶせる治療法です。人工歯根と顎の骨がしっかりくっつけば、自分の歯のようにかむことができるようになります。

これに対して、部分入れ歯は歯肉の上に乗る床（ピンクの部分）があるため、装着時の異物感があることが多く、かむ力も自分の歯より弱くなります。

さらに部分入れ歯の場合は入れ歯を維持、安定させるためのバネを掛ける歯に負担がかかり、審美的にも劣ります。インプラントでは隣の歯に負担をかけることもありません。

ただ、入れ歯には一部の材質を除き健康保険が適用されますが、インプラントは自費治療となります。また、外科手術を伴うインプラント治療は誰でも受けられるわけではありません。喫煙者や糖尿病、骨粗しょう症などの疾患がある場合は特に注意が必要です。

インプラントにもいろいろな種類やサイズがあります。口の中の状況は個人や部位で異なり、インプラントも適切なものを選択する必要があります。そのためにはしっかりとした診査、診断を行います。疑問に思うことがあれば、歯科医師に質問し、納得した上で治療に入ることが大切です。

インプラントはむし歯にはなりませんが、清掃が悪いとインプラント周囲の歯肉に炎症を起こしますので、装着後も歯科医院で定期管理を受けることが必要です。そうすることによって、インプラントも長期に安定し、楽しい日常生活を送ることができます。詳しくはかかりつけの歯科医院で相談してください。

回答者
林下（はやした）　富貴（とみたか）
諫早市立石町
はやした歯科医院長

質問をどうぞ　歯と口の健康に関する質問を受け付けます。県歯科医師会の先生方が回答します（直接本人に回答はしません）。症状などを分かりやすくまとめ、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、〒852―8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「お口の相談室」係に送ってください。県歯科医師会のホームページ（http://www.nda.or.jp/）も参考にしてください。